

調査概要(第Ⅰ部・第Ⅱ部)

本調査は、看護職の時間外勤務や交代制勤務の実態や疲労等を把握する目的から、「時間外労働、夜勤・交代制勤務等緊急実態調査」「看護職の労働時間管理に関する緊急調査」の2つの調査を実施したものである。1) 本会会員から抽出した病院勤務の1万人を調査対象とした調査、2) 本会会員が勤務する全病院から抽出した2,500病院を対象とした調査、の2つの調査からなる。それぞれの調査の詳細は以下の通りである。

第Ⅰ部 2008年 時間外労働、夜勤・交代制勤務等緊急実態調査

1) 調査対象

本会会員から無作為抽出した病院勤務の10,000人

2) 調査方法 質問紙(自記式)の郵送配布・回収

3) 調査期間 2008年11月から2009年1月

4) 調査票の回収：3,010件(回収率：30.1%)

第Ⅱ部 2008年 看護職の労働時間管理に関する緊急調査

1) 調査対象

本会会員が勤務する全病院から層化・無作為抽出した2,500病院

2) 調査方法 質問紙(自記式)を各病院の看護管理者宛に郵送配布・回収

3) 調査期間 2008年11月から2009年1月

4) 調査票の回収：1,425件(回収率：57.0%)

なお、上記の質問紙調査のほか、協会ニュース等を通じて公募を呼びかけ、調査に協力の得られた病院勤務の看護職15名を対象とした「生活時間調査」も実施しており、2009年1月18日から27日までの10日間についての勤務と生活の実態(勤務、時間外勤務、通勤、休憩、睡眠)を自記式のタイムスタディにより把握した。

代表的な事例については、本会の協会ニュースVol.503(2009.5.15)「時間外勤務、夜勤・交代制勤務等緊急実態調査」結果概要にて報告している。